



感謝状を受け取る警察協力功労者

惜しみない協力に感謝 警察協力功労者表彰式

地域での交通安全運動や防犯活動などに貢献した団体と個人を表彰する「平成28年度警察協力功労者表彰式」が1月27日、市商工会館で行われ、市内の10団体、個人7人が表彰されました。式では、小坂一男つがる警察署長が一人ひとりに感謝状を手渡し「地域の安全は努力して得られるものです。市民の安全安心を実現するため、受賞された皆さまには、これまで同様のご支援をお願いします」と式辞を述べました。

また、6人の優良警察職員も表彰され、成田俊孝警部補が「本日の受賞を契機としてさらに自己を磨き、謙虚に市民の声に耳を傾け、積極果敢に職務に尽くします」と受賞者を代表して誓いの言葉を述べました。

生きがいを仲間と分かち合う

つがる市老人クラブ連合会(工藤勇一会長)と西津軽郡老人クラブ連合会(草野力丸会長)共催による「平成28年度芸能大会」が1月26日、柏ふるさと交流センターで開催され、約250人の老人クラブ会員らが多彩なステージを楽しみました。

これは、芸能を通して管内老人クラブの親睦と生きがいの高揚を図ろうと毎年行われているもので、はじめに工藤会長が「悩みが多い時代ですが、明るく元気で過ごしましょう。今日は出演者の方へ元気に拍手を送ってください」とあいさつしました。芸能発表のステージでは、各地区の出演者が歌や踊りなど26の演目を展開。日頃から生きがいとしている練習の成果を存分に披露し、会場は大いに盛り上がっていました。



踊りを披露する出演者



楽しそうに豆をまく園児たち

鬼は外！元気に豆まき

2月3日、市内各地の保育園や幼稚園で豆まきや恵方巻き作りなどの節分行事が行われました。

いなほ保育園(倉内泰雄園長)では、手作りの鬼のお面をかぶった72人の園児が、豆まき会を楽しみました。はじめに倉内園長から豆まきの由来を聞いて勉強した園児たちは、童謡「まめまき」と「鬼のパンツ」を元気に合唱。玉投げゲームでは「いじわる鬼」や「泣き虫鬼」などが描かれた的にボールを当て、心の中の鬼を退治すると約束しました。

その後、赤鬼が登場すると園内は大騒ぎに。楽しそうに豆をぶつける子や泣き出す子などいろいろな表情を見せていましたが、みんなで力いっぱい豆をまいて鬼を追い払いました。

消防署再編案を中間答申

市消防署再編統合計画策定審議会(平川豊会長)が2月6日、福島市長に消防署再編案を中間答申しました。同審議会は計6回に渡り、今後の消防体制について意見を集約し慎重に審議を重ねてきました。今回の答申では、署所数を現状の「1署(つがる市消防署)、3分署(森田・稲垣・車力)、1分遣所(柏)」から「2署(つがる市消防署、仮称北消防署)、1分遣所(仮称稲垣分遣所)」とすること、これにより生じる課題への対応として、現在整備中の高機能消防指令センターの活用など迅速に対応できる体制を構築することなどが盛り込まれました。答申書を受けた福島市長は「答申内容を尊重し、市民の安心安全を第一に持続可能な体制整備を進めていきたい」と答えていました。



答申書を手渡す平川会長

日頃鍛えた芸を披露

牛潟公民館歌謡祭

牛潟公民館で1月29日、初めてとなる公民館歌謡祭が開催され、約230人の市民らが集いました。

はじめに牛潟町内会の佐々木剛会長が「出演する人もご覧になる方も、みんなで楽しく新年を祝いましょう」とあいさつ。ステージでは、出演者が華麗な衣装に身を包み、歌や踊りなど日ごろの練習の成果を披露していました。また、「スウィングアーツ」による生バンド演奏や「楽歌声の会」による歌謡が観衆を魅了。富范町から見に来ていた松橋広一さんは「このような催しをすることで牛潟に大勢の人が集まり地域は活気づく。今後もつづけてほしい」と話していました。客席では歌に合わせて踊りだす人もいて、会場は大いに盛り上がりしました。



生バンド演奏を披露するスウィングアーツ



絵札を取り合う園児たち

雪上に歓声ひびく 銀杏ヶ丘保育園「雪上かるた大会」

2月10日、銀杏ヶ丘保育園（稲葉綾子園長）で「雪上かるた大会」が行われ、園児約70人が雪の感触とかるた遊びを楽しみました。これは、雪遊びに学びを加えて、楽しみながら園児の体力づくりをする同保育園冬の恒例行事。絵札と読み札は、平成23年度の卒園児が制作したもので、読み札には「よくかんで たべるごはんはおいしいよ」「そとであそぼう きもちいいね」といった健やかな生活習慣などが書かれています。

札が読み上げられると、園児たちは雪山に向かって一直線に駆け出し、雪上に並んだ絵札を取り合いながら歓声を上げていました。佐々木心乃花ちゃん（6歳）は「1番目のかるたが取れてうれしかった。雪も走るのも大好き」と話していました。

市立図書館が来館20万人を達成

2月15日、市立図書館の来館者が20万人に到達し、来館20万人達成セレモニーが行われました。この日20万人目となったのは、五所川原市に住む小学4年生の太田奈那さんで、母・亜樹子さんと妹・望結さんの3人で来館しました。

セレモニーでは、葛西岨輔館長から記念プレートなどが贈られ、奈那さんは「20万人目は貴重な経験。物語を読むのが好きで頻繁に利用しています」と話していました。同図書館は昨年7月29日に開館し、同年10月2日には10万人に到達。今回の20万人達成に葛西館長は「おはなし会やタブレット講座など図書館事業も充実してきた。今後も、身近な市民のための図書館として発展させていきたい」と抱負を述べていました。



記念プレートを受け取る奈那さん（中央）



電子図書館を体験する参加者

市民らが電子図書館を体験

市立図書館で2月12日、農業支援講座が開催され、農業を営む人や農業に関心がある人約20人がタブレット端末を使った「ルール電子図書館」を体験しました。これは、情報の検索や小中学生の学習などいろいろな使い方ができるもので、講座では市の基幹産業である農業に役立ててもらおうと「食と農の総合データベース」が紹介されました。参加者は、病害虫の防除法や作業こよみ・土づくり、さらには食生活など農業に関係する蔵書検索を体験。市内から参加した農家の女性は「簡単に調べられて便利。ぜひ活用したい」と話していました。

ルール電子図書館は、図書館ごあんないカウンターで貸し出し、館内で利用できます。